

日本学術会議
学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会
論点整理メモ(2016年7月15日)

文責 委員長 大西隆

1. 学術研究資金の動向とその評価

研究者発意型研究資金、課題設定型研究資金、研究者指名型研究資金等の学術研究資金がどのような経緯をたどってきたのか、現在どのような状態にあり、どのような問題・課題を抱えているのか？

2. 研究機関の運営は基盤的経費、研究は競争的資金で行い、競争的資金の間接費で運営の一部を賄うべきという考えと、研究機関の運営の大部分を基盤的経費で賄うべきという考えがあるが、基盤的経費と競争的資金とはどのようなバランスにあるべきか？

研究主体の機関と教育主体の機関で、基盤的経費と競争的資金のバランスはどの程度異なるべきか？

3. 民間から大学等への研究資金の流れを拡大するにはどのような方法が有効か？

共同研究体制の在り方（クロスアポイントメント制度の活用）

共同研究を通じた研究者の育成（博士人材の育成）

知的財産管理に改善するべき点があるか？

4. 競争的資金・外部資金における間接的経費の在り方

間接的経費の根拠は何か？またその割合はどの程度であるべきか？

民間からの共同研究費、寄付金などにおける間接的経費はどうあるべきか？

研究者のエフォート管理はどうあるべきか？

5. 各府省が行う研究資金助成制度について

研究者発意型・課題設定型・あるいはその組み合わせ型の研究資金制度には、どのような原則が適用されるべきか？

省庁間の連携にどのような成果があらわれていると考えるべきか（SIP、アクションプラン等）

採択に関わる審査の在り方、研究方法の在り方、結果公表の在り方、知的財産の在り方

6. 研究者発意型研究資金のあり方について

科研費改革の評価

科研費は、広く薄くか、高額から低額の研究費までバランス良くか、その在り方についてどのように考えるべきか？

7. 新たな研究資金の財源の可能性

研究成果と連動した新たな研究資金の開拓の可能性はあるか？

その場合、税金を原資とした研究資金と重複することにならないか？